

過去出場者や保護者の感想から（出場者分析）

これまで出場した子供たちが、どのような力をつけ、またそれがその後の子供たちの人生にどのように影響を与えたかという点などについて、アンケート調査などを踏まえてまとめてみた。

①コンテスト自体の価値

最終審査会に出場した子供達とその保護者の方へのアンケート調査から、非常に興味深い傾向が読み取れた。それは、一つの作品作りに取り組む過程で得られる、子供の姿の変容である。具体的な言葉としては、「自信」「考える」「失敗」「度胸」などが多く登場する。これは、自分の思いの詰まったアイデアを立体作品にする上で、何度も試行錯誤していきながら成長していく姿を目の当たりにしているからだと思える。

そして、そのなかでもやはり「プレゼン」に関しては、子供たちの体験として大きな出来事となっている。たった2分間とはいえ、原稿を書くこと、説明にふさわしい作品を作り上げること、声を出すことなど、アイコンタクトをとることなど、プレゼンに必要な数々の力を試行錯誤の中で体験的に学んでいる。

今、最も必要な力として、これらのことに気づかせてもらったということで、特に保護者からは、最高の動機づけになったという言葉をもたらしている。

②将来にわたって学び続けることや、キャリア教育の視点から言えるきっかけ作りなど

これまでの入賞者が、その後どんな進路をたどり、このアイデアコンテストに出場したことが何らかのきっかけになっているかどうかという点についても、アンケート調査にて調べてみた。すると、例えば、「当時の夢」と「現在の夢」の両方に良く出てくる言葉は、医師や女優、パイロット、教師、ロボット開発者などの創造系または、表現系、技術系の仕事が多くなっているのが、特徴的である。なんかのきっかけになったのかもしれないと思うと、わくわくするものである。

これについては、結果のみの分析なので、相関があるかどうかは、よく分からない。研究的仕事に向いている子供が、このコンテストに入賞したのか、このコンテストに入賞したから研究的仕事を目指すのかは、不明であるが、おもしろい結果になっている。

ただ、人前で考えを話すことなどに抵抗がなくなったきっかけとなったなどは、言えるかもしれない。小学生が一般の大人にむけて、堂々と自分の考えを発表する機会など、なかなかあるものではないから、そういう機会を与えてくれること自体が夢をカタチにする第一歩になっているのだと思う。